

五月十日 つづき

十六時研究室雑用、アンドレイ・城間、アベル等との相談。住宅打合わせ。古市徹雄君より突然電話あり、今日が彼の処女著書の出版パーティなので出てくれとのこと。古市君らしい押し強さに負けて十八時過六本木の国際文化会館へ。短いスピーチをして、すぐ引き上げる。久し振りだな、こういう設計業界の集まりに顔を出したのは。帰りは六本木地下鉄大江戸線駅まで歩いた。磯崎事務所に近いので、磯崎さんの顔を見なくなったけれど、居るか居ないかわからないのでやっぱり止めてしまった。二十一時頃世田谷村に戻る。古市君には悪いけれど、私は設計業界との付き合いはとくに足を洗っているのだ。面白くネエよ設計屋達の集まりは。

夜、銅版を彫るが、あんまり進まず。

五月十一日

七時過起床。屋上に生ゴミを埋める。雨の日の後の屋上は緑がみずみずしくて気持が良い。まいた種、名前はもう忘れたが、芽をいくつか出していて嬉しい。人間と違って植物は手入れをすれば必ず芽を出すから、より因果応報的物質である。

銅版の面白いところは、色々考えながら彫り始めて、しかし、これはうまくゆきそうにない事が解ってしまふ。しかし、あきらめずに闇雲にカリカリ彫り込んでゆくのを止めないでいると、何

とか径が開けてくるところがあるところだ。失敗だと思ってからが勝負なんだな。しかし、そのカリカリ、ゴリゴリの止めどころが実に難しい。彫らぬ余白に物言はせる妙味があるのだろう。

十時京王稲田堤星の子愛児園増築現場。群馬の森田さん親子と会って、左官仕上げの相談。世田谷村に寄ってもらい仕上げの打合わせ。世田谷村では一切これまで左官の手を入れていなかった。森田のオヤジさんもそれを気にしていっ、左官を呼ぶのかと気にしてくれていたようで、五年振りに自宅に寄ってもらって相談した。絵に描いたような義理と人情編で我ながら笑ったが、それはそれなりに筋は通っているのだ。森田親子にそうめんの昼食を喰べていただき、その後大学へ。若干の打合わせ。十六時目白GKへ。栄久庵さん等と日本フィンランド・デザイン協会打合わせ。フィンランドの小パピリオンプロジェクトには鈴木博之さんに登場していただく。十八時研究室戻り。日建シビル橋本氏来室。高田馬場文流で会食。色々話し込む。二十一時過世田谷村に戻る。

今日は本当に久し振りに栄久庵さんのところで、ワインをグー一杯いただき、橋本氏とも赤ワイン一本あけた。自然に、飲みたい時に飲む酒はうまいものだ。